

麻布幼稚園だより 4月号

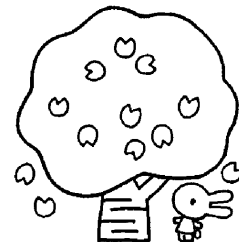
平成30年4月9日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「新しい環境の作り手として」

園長 大島 美知代

ご進級おめでとうございます。新しく4歳児、5歳児に進級した園児のみなさん、保護者の皆様、新たな気持ちで新学期を迎えていることと思います。

そして、ご入園おめでとうございます。新3歳児25名、新4歳児4名が入園しました。平成30年度は全77名でのスタートです。同じ場所で生活する77名が安全に、安心して生活し、学べるように教職員一同努めてまいります。



春季休業日中には園庭の工事が進みました。昨年度、3月19日の終業式まで工事を待ってもらった形となり、サクランボの花、梅の花が咲き、桜の花がほころぶ様子を見ることができました。春季休業日中には、とうとう満開になった桜の木が切られ、園児が遊んでいた固定遊具が撤去されました。出勤して環境整備をしていた教職員は、前さく組の窓から桜の木の伐採と固定遊具の撤去の最後の姿を見つめました。「新しい環境の作り手」となる我々としてはこの場面を頭では理解していたものの、とてもさびしく、悲しく感じました。

本園はこの3学級横並びの環境での保育は最後となります。今年度は園児同士も隣の学年の刺激を受け、年下の子の困っている様子、年上の子の新しく展開する生活や遊びの様子を垣間見て、安心したり、心が和んだり、興味・関心を高めたりする保育の良さを展開していきます。教職員が関わる指導は当然ですが、園児同士で自然に気持ちが動いて、関心を高め、興味をもって生活や遊びに関わるのはとっても自然で、様々な事象を見て感性を豊かにすることだと確信しています。

幼稚園教育は今年度から平成29年度告示の「幼稚園教育要領」が本格実施となります。10年毎に改正となるこの法律ですが、以前の法律と変わらず、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」であり、幼稚園教育は学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」（第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本、より抜粋）と明記されています。幼児期の教育は、幼児がこれから受ける義務教育やその後の教育、生涯学び続ける基礎を培い、豊かな感情に触れ、体験を通して感性豊かに、そして健やかに一生を送れるような心と体を健やかに成長させる大切な基礎の時期であると言えます。幼児を取り巻く地域、家庭、幼稚園等の教育機関が手を携えて、これからの日本、世界で活躍できる人間に育てていく基礎を培う時期です。私たち大人にはその使命があります。幼児は言葉も未熟、自分のことをするのに時間がかかる時期なのでついつかばってしまったり、手伝い過ぎてしまったりすることも容易くできます。それでいいのでしょうか？

今年度は麻布幼稚園も新しい環境に生まれ変わる年度です。新しい幼稚園を区の方も作っています。今年度、保護者の皆様と教職員も「新しい環境の作り手」として一緒にがんばっていきましょう。